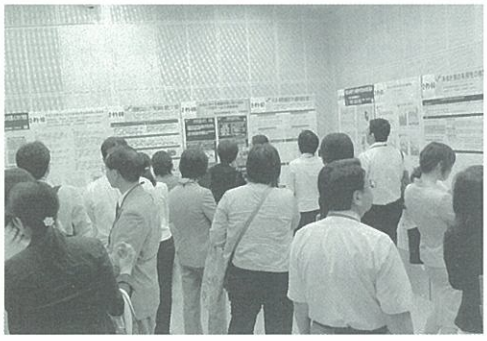
クティショナーの活用」と題し、草間朋子先生と緒方さやか先生にご講演いただきました。草間先生は、医療職種間の業務・役割分担に関するさまざまな政策が打ち出される中、看護職がより専門性を強化し裁量範囲を拡大したナースプラクティショナー養成の必要性を、緒方先生からはアメリカでの実践を踏まえて、日本でのナースプラクティショナー誕生への期待と提言をいただきました。

特別講演として、厚労省医政局指導課長の三浦公嗣先生に「医療提供体制―今後の展望」と題して講演いただきました。日本の医療福祉体制の中長期的な展望を示していただきました。この中で最近国会を通過した地域医療再生プラン補正予算(3,100億円)の話もあり、それぞれの地域医療再生プランの参加を考えられた先生方も多かったのではないかと思います。

また、シンポジウムとしては、「地域連携クリティカルパスの今後の動向」「医療コンフリクト・マネジメントへの取り組み」「チームで取り組むがん患者の在宅ケアと緩和ケア」「総合的口腔ケアをめざすチーム医療」がおこなわれました。今回のテーマである新たな地域連携を模索した熱心な討議がなされました。

また、教育講演として「ERと地域医療体制」と題して、福井大学の寺澤秀一教授にご講演いただき、会場は笑いの渦に包まれた１時間でした。その他、教育セッションとして「医療安全の最近の動向とRCA(根本原因分析)について」やフリートークセッションの「医師および医療関係職との役割分担をスムースにおこなうためには」等会場いっぱいの熱気に包まれました。



クリティカルパスポスター展示

最後に、市民公開講座として、テレビキャスターの草野仁氏に、「いつもチャレンジ精神で」と題して、元気の出るお話をいただきました。多くの市民の方の参加もあり、会場は、聴衆でいっぱいでありました。

１日目の夜は、懇親会として、グラバー園での長崎港の夜景を楽しんでいただき、またクルーズ船で、海上からの長崎の夜景を満喫していただきました。多くの参加者の皆様から、すばらしい企画だったとお褒めの言葉を頂き、スタッフ一同これまでの準備の苦労が報われた気がしました。

２日間を通して、参加された一部の方々には、入りきれない会場や、不案内な会場設定等で、ご不快な思いをされた方も、いらっしゃいました。改めてお詫びを申し上げます。

最後になりましたが、開催までの長い準備期間、熱心にご指導いただいた学会関係の方々、病院スタッフの皆様、看護学生さんに心より感謝申し上げます。今後とも、学会発展のため、この基礎をしっかり固めかため、発展させていきたいと思います。来年は、札幌でお会いしましょう。

日本医療マネジメント学会学術総会会長賞を受賞して

肝疾患地域医療連携のマイル・ストーン

国立病院機構熊本医療センター
消化器病センター消化器科医長　杉　和洋

第11回日本医療マネジメント学会学術総会において、学術総会会長賞を稲垣春夫第10回学術総会会長より授与されました。論文名は「地域連携クリティカルパスを用いたC型慢性肝炎診療標準化の試み」で、日本医療マネジメント学会雑誌第９巻第３号に掲載されました。

2008年３月にインターフェロン療法地域連携クリティカルパスを作成し、４月に運用を開始しました。同時期より始まったインターフェロン治療費助成が普及の追い風になったと考えられます。作成にあたっては消化器科医師ならびに病棟看護師の協力により、また運用にあたっては、かかりつけ医の先生方の協力により今回の成果を上げることができたものと感謝いたします。

この１年間で、地域連携クリティカルパスを用いた医療連携は、顔の見える勉強会として発足した「二の丸肝臓談話会」と、患者および住民啓発活動により、前方連携および後方連携の構築をなしてきています。これが肝疾患地域医療連携のマイル・ストーンとなり、地域における診療の標準化および効率化のみならず、診療の質が向上することを期待しています。

関係の皆様には受賞にあたり心より御礼申し上げますとともに、今後ともご指導の程お願い申し上げます。

学術総会会長賞を受ける杉　和洋氏